



2011年3月期 決算説明会

2011年5月16日

石油資源開発株式会社

注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。
事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

注: 本資料において 1H,2H はそれぞれ上期、下期を、
(a) は実績数値を、(e) は予想数値を示しています。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社 広報IR部 IRグループ 電話 03-6268-7111

説明会の内容

■ 1. 事業概況

■ 2. 2011年3月期 決算概要

■ 3. 2012年3月期 業績予想

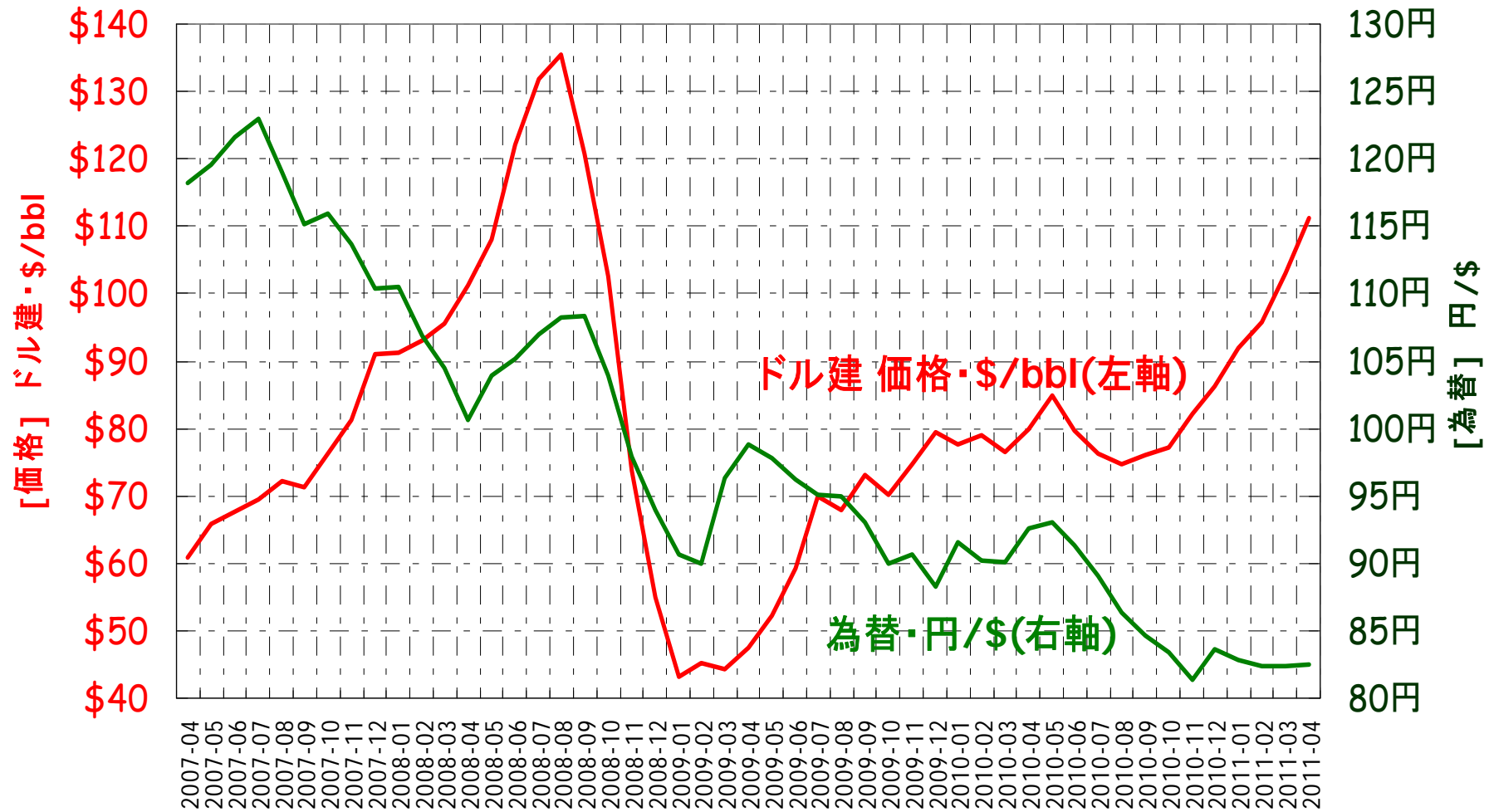
■ 4. 新中期事業計画

(2012年3月期～2016年3月期)

事業概況

代表取締役社長 渡辺 修

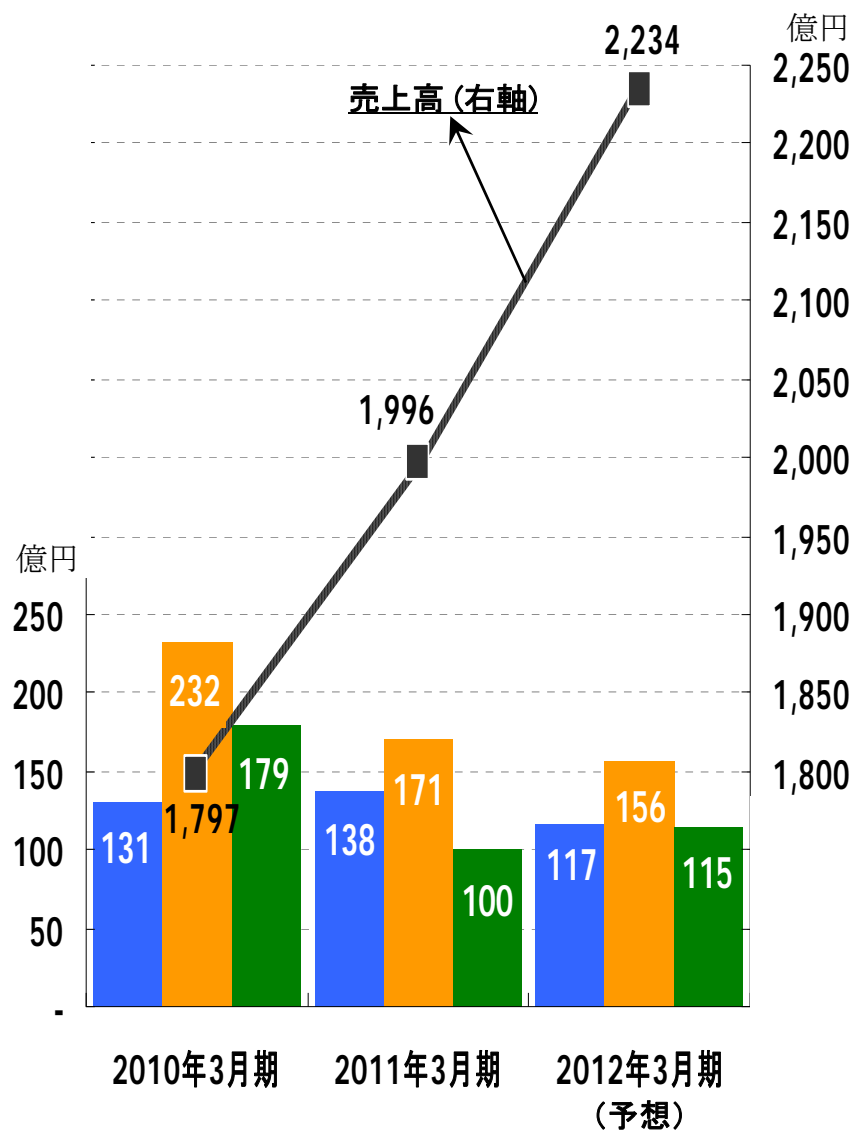
原油価格と為替の動き



2011年4月上中旬(4/1-4/20)分のCIF価格(速報)

USD 111.20 /bbl 82.45 円/USD

11/3月期決算、12/3月期予想【ハイライト】



■ 営業利益(左軸) ■ 経常利益(左軸) ■ 当期純利益(左軸)

■ 11/3月期実績 (10/3月期実績比)

[億円]	10/3月期 実績(a)	11/3月期 実績(a)	比較増減	
売上高	1,797	1,996	+199	+11%
営業利益	131	138	+7	+5%
経常利益	232	171	▲61	▲26%
当期純利益	179	100	▲79	▲44%
油価 (\$/bbl)	67.50	82.69	+15.19	+23%
為替 (Yen/\$)	92.74	86.24	▲6.50	▲7%

■ 12/3月期予想 (11/3月期実績比)

[億円]	11/3月期 実績(a)	12/3月期 予想(e)	比較増減	
売上高	1,996	2,234	+238	+12%
営業利益	138	117	▲21	▲15%
経常利益	171	156	▲15	▲9%
当期純利益	100	115	+15	+15%
油価 (\$/bbl)	82.69	90.00	+7.31	+9%
為替 (Yen/\$)	86.24	85.00	▲1.24	▲1%

12/3月期 国内探鉱計画

◆ 試掘井 掘削スケジュール

	坑井種類	掘削深度	12/3月期												備考
			1Q			2Q			3Q			4Q			
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
明野A1	試掘	5,070 m													

◆ 物理探鉱計画: 2班

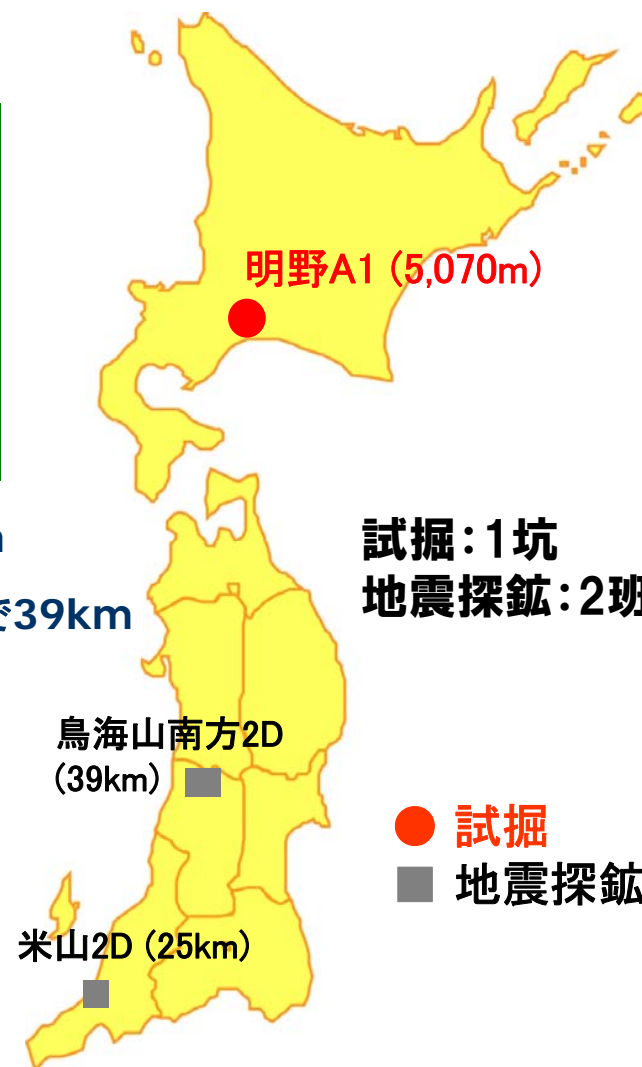
2D震探: 新潟県(米山)で25km

2D震探: 山形県(鳥海山南方)で39km

試掘: 1坑
地震探鉱: 2班

□ 11/3月期 試探掘結果

	坑井種類	掘削深度	11/3月期												備考
			1Q			2Q			3Q			4Q			
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
あけぼの SK-5D	探掘	4,975 m													成功
小友 SK-1D	試掘	3,102 m													廃坑



12/3月期 設備投資計画

[単位:億円]	08/3月期	09/3月期	10/3月期	11/3月期	12/3月期 (予想)
設備投資額	417	309	288	219	307
減価償却費	166	215	232	245	238

12/3月期 主な設備投資項目

国内 設備投資 120億円

北海道 LNG 内航船受入設備 (前期より継続)
CO2 排出削減設備 (前期より継続)

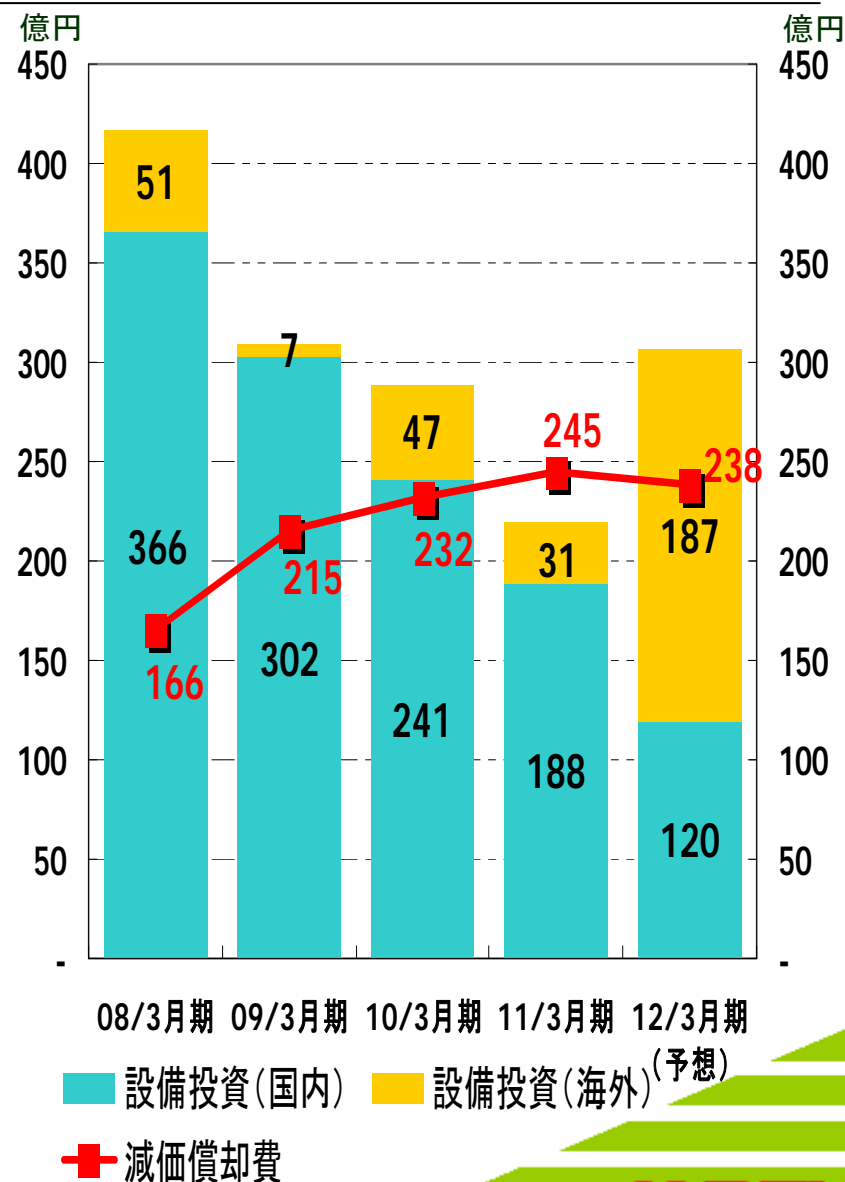
東日本大震災による
被害の復旧のための新規取得設備

海外 設備投資 187億円

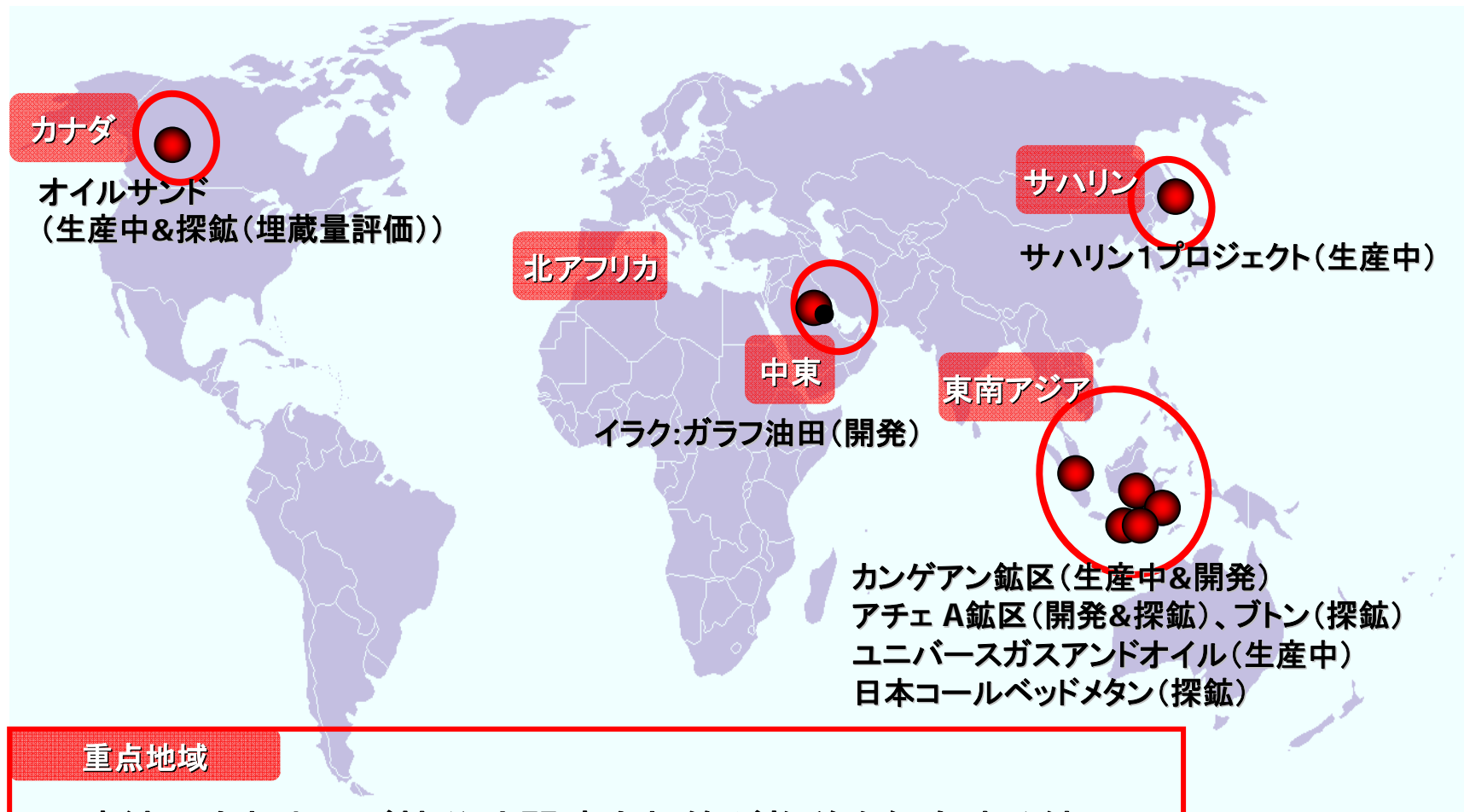
イラク ガラフ油田 開発

カナダ オイルサンド事業 操業設備改善工事

インドネシア 「アチェ A 鉱区」 ガス田開発



海外事業【重点地域での取組み】



● イランJJI S&Nは、最終報酬をイラン国営石油会社から受領後、事業終結予定。

海外事業現況 ① カナダオイルサンド

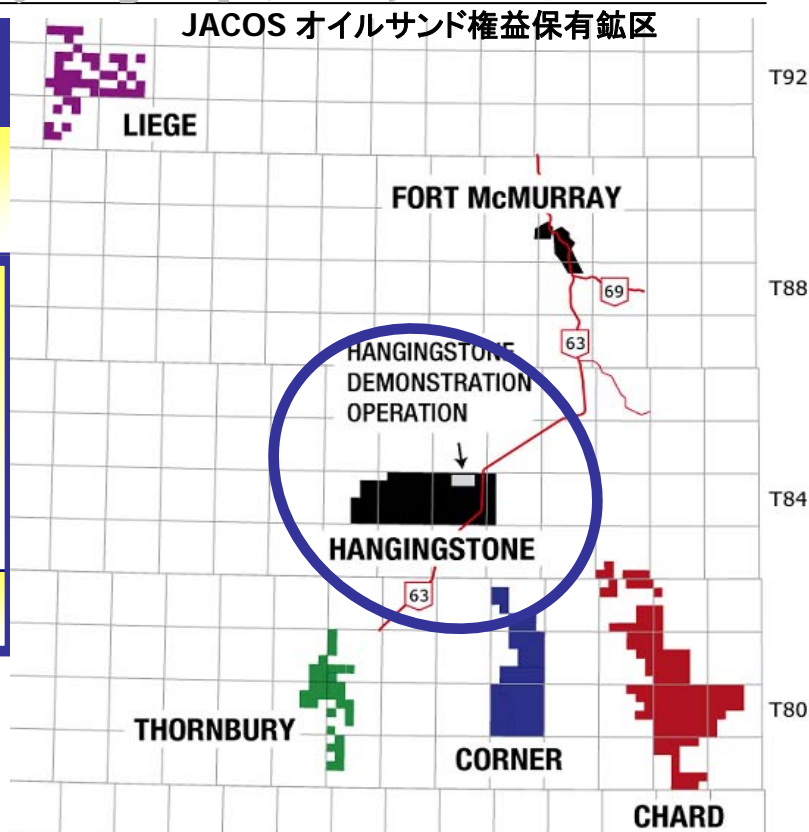
プロジェクト会社 カナダオイルサンド(株)
(CANOS: 当社86.64% 出資)

オペレーター **Japan Canada Oil Sands Ltd.**
(JACOS: CANOSの100%現地子会社)

生産中、開発 計画中鉱区	Hangingsone 3.75 セクション 約7,000 - 8,000 bbl/d (2011年1月末累計生産 量: 2,389万bbl) 現在 生産中	Hangingsone 未開発地域 拡張開発計画 最大 35,000 bbl/d 規模の追加生産
	権益比率	100%

■ 拡張開発計画 スケジュール

- 2010 4月 開発許可申請
基本設計着手
- 2011 開発許可取得後、最終投資意思決定
2011/2012 冬季 建設工事 着手
- 2012
- 2013
- 2014 年末、生産開始(予定)



■ JACOS が 保有するオイルサンド未開発鉱区
条件付資源量1,717百万bbl (2008年12月末現在)

オイルサンド資源量評価対象鉱区

Hangingsone、Chard、Corner、Thornburyの各鉱区について評価を実施。対象鉱区は、単独保有と共同保有からなり、評価対象面積は788.4km²(gross)、373.4km² (net)。なお、Liege鉱区にもビチューメンが賦存しますが、賦存状況から当面開発対象としていません。

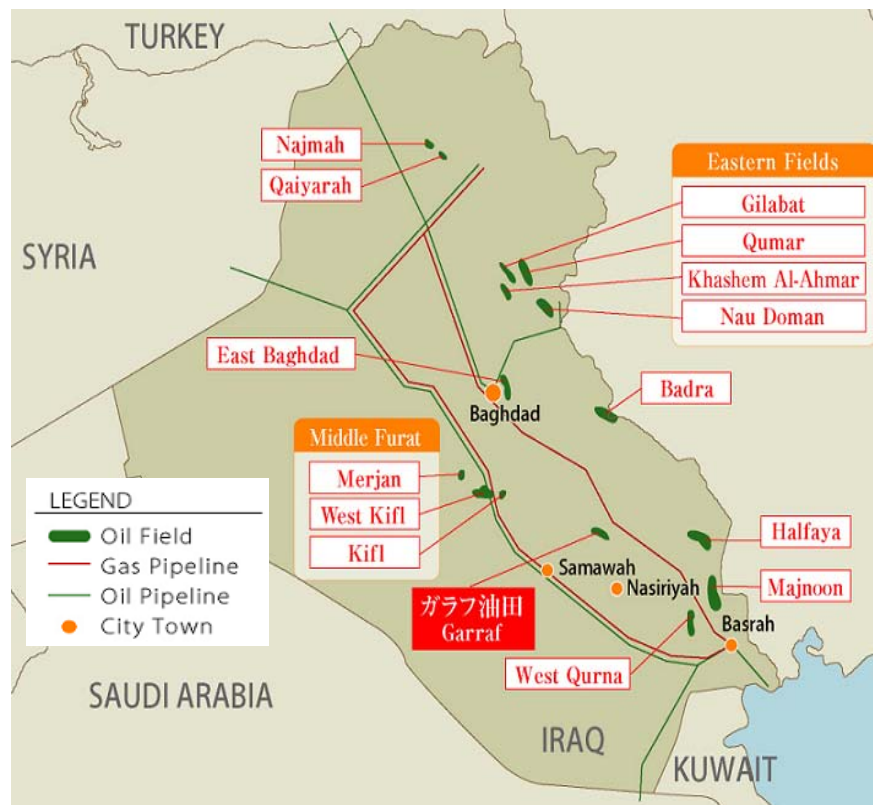


海外事業現況 ② イラク

ガラフ油田開発プロジェクト

契約種類	開発生産サービス契約
契約当事者	イラク南部石油公社(SOC)
契約期間	20年間(最大5年延長可)

コント ラクター	PETRONAS オペレーター	ジャペックス ガラフ	イラク北部 石油公社
資金負担	60%	40%	-
収益配分	45%	30%	25%



2010 契約発効: 2010年2月10日

2011

2012 5万bbl/d にて商業生産開始

~ 段階的に生産量の引上げ

2016

2017 23万bbl/d の
目標安定生産量に到達

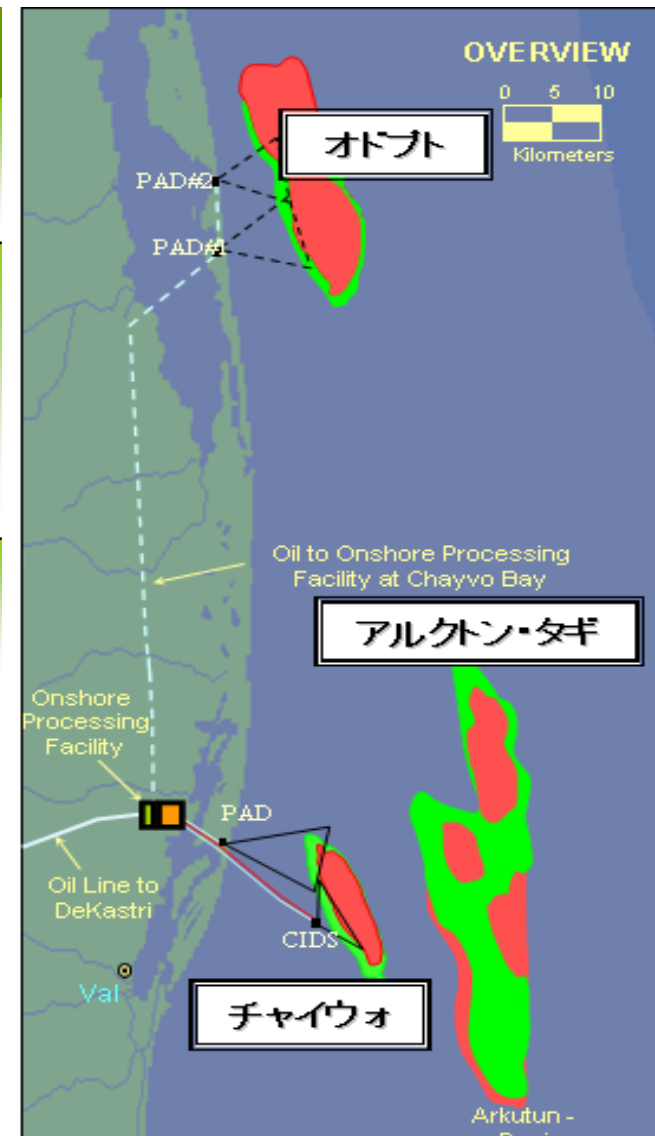
■ 契約期間中 累計生産量
約13億bbl



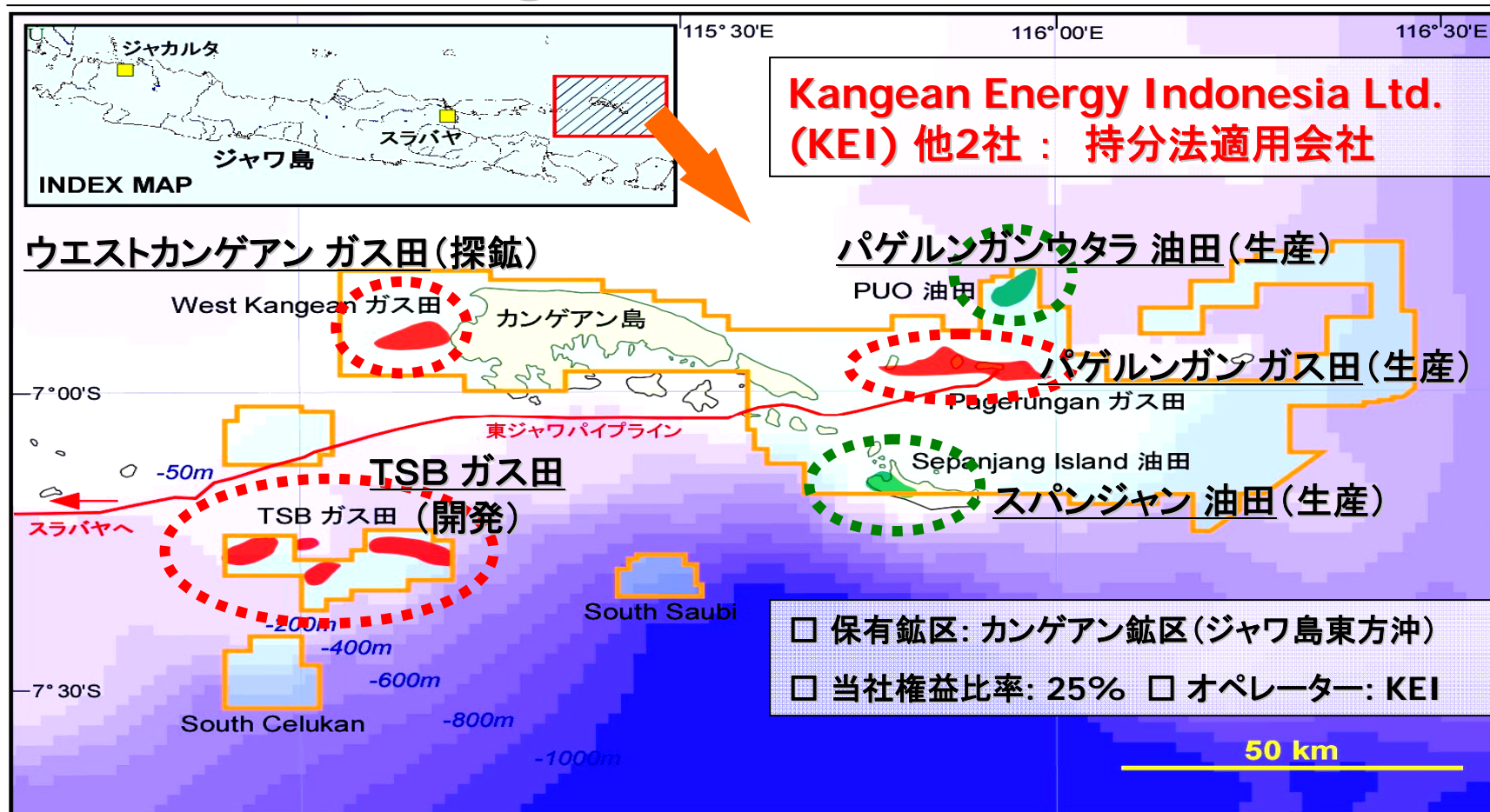
海外事業現況 ③ サハリン1 プロジェクト

サハリン1 コンソーシアム			権益比率
Exxon Neftegas Ltd.			30%
サハリン石油ガス開発 株式会社 (SODECO)			30%
[経済産業大臣]	[JAPEX]	[伊藤忠商事]	
50.00%	14.46%	14.46%	
[丸紅]	[INPEX]	[伊藤忠石開]	
11.68%	5.74%	3.66%	
ONGC			20%
SMNG-Shelf			11.5%
Rosneft-Astra			8.5%
2005	【チャイウオ 油ガス田】 10月、原油生産開始		
2006	10月、輸出開始		
2007	2月、目標ピーク生産量 25万bbl/d 到達		
2008	1月、累計 1億bbl 達成		
2010	【オドプト 油ガス田】 9月、原油生産開始		

【アルクトン・ダギ 油ガス田】 開発に向け準備中



海外事業現況 ④ インドネシア カンゲアン鉦区



- 現在の生産規模は、原油換算約1万boe/d
- パゲルンガンウタラ油田: 2011年1月 原油6,000bbl/dで生産開始
- TSBガス田: 2012年前半、3億cf/d(原油換算約5万boe/d)の生産開始を目指す
- 生産量は約6万boe/dに拡大 ■ PS契約: 2030年まで

海外事業現況 ⑤ インドネシア アチェ A 鉱区

プロジェクト会社
(株) ジャペックス Block A

権益比率 **16.67%**

保有鉱区:アチェA鉱区
 (スマトラ島北部)

オペレーター:Medco社
 生産規模 最大 **約 1億cf/d**
 (原油換算 **約 2万boe/d**)

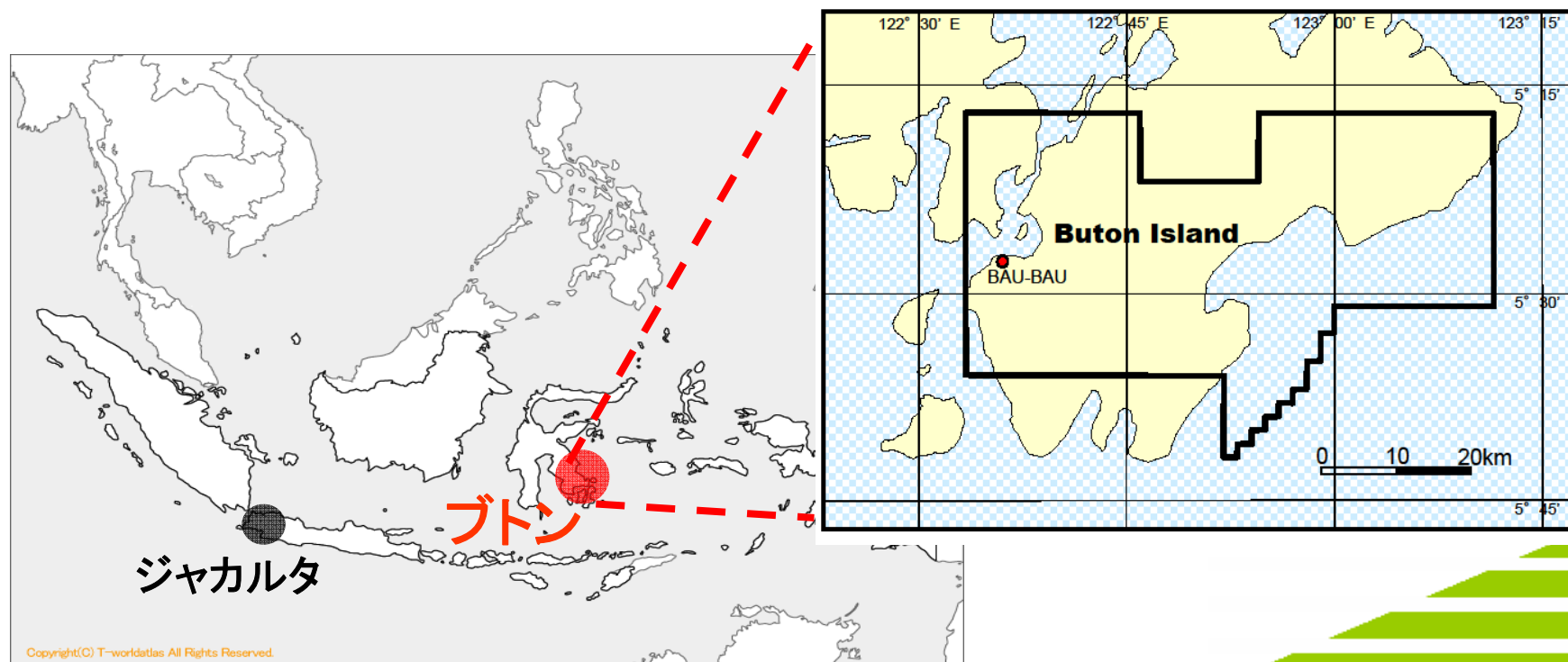


2010	延長PS契約 承認	延長契約の契約期間: 2011年9月1日より 20年間
2011	契約締結完了、 生産開始に向け開発に着手	
2013	アルランボン ガス田 ジュルラユ ガス田 アルシワ ガス田	} 生産規模 最大 約1億cf/d



海外事業現況 ⑥ インドネシア ブトン鉱区

プロジェクト会社	(株)ジャペックスブトン	2008	空中重磁力調査 実施 2D 地震探鉱調査 実施
権益比率	40%	2009	試掘対象構造 選定
保有鉱区	ブトン鉱区 (南東スラウェシ州 ブトン島陸・海域)	2011	試掘井1抗 掘削 予定



Copyright(C) T-worldatlas All Rights Reserved.

2011年3月期 決算概要

代表取締役副社長 佐藤 弘

11/3月期 決算概要【ハイライト】

[百万円]	10/3月期 通期 実績 (a)	11/3月期 通期			実績 (a)
		当初予想 5.14公表(e)	修正予想① 11.5公表(e)	修正予想② 2.9公表(e)	
売上高	179,752	196,891	192,319	194,606	199,651
営業利益	13,119	13,267	8,144	9,396	13,849
経常利益	23,206	14,908	10,454	13,028	17,122
当期純利益	17,939	10,265	7,434	9,083	10,010

[油価と為替の前提]

原油CIF価格 (USD/bbl)	67.50	80.00	79.53	81.62	82.69
為替/米ドル (Yen/USD)	92.74	90.00	87.56	86.37	86.24
ビチューメン価格 (CAD/bbl)	50.15	56.65	49.31	48.67	48.32
為替/カナダドル (Yen/CAD)	88.07	85.00	80.00	81.47	81.47

◆ 11/3月期 当初予想 (5.14公表) → 修正予想① (11.5公表)

【-】天然ガス及び原油の生産販売計画を下方修正 【-】原油価格及びビチューメン価格の下方修正

◆ 11/3月期 修正予想① (11.5公表) → 修正予想② (2.9公表)

【+】原油価格の上昇 【+】探鉱費の減少 【+】営業外損益の改善

◆ 11/3月期 修正予想② (2.9公表) → 決算

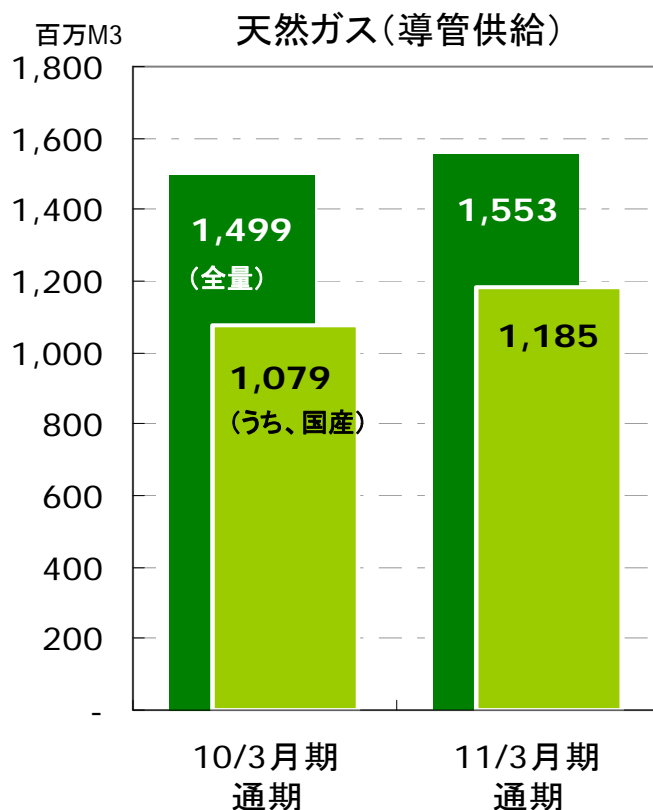
【+】天然ガス原油価格の上昇及び需要の増加 【-】東日本大震災における災害損失

経常利益 171 億円 (2.9公表比+40 億円)

当期純利益 100 億円 (2.9公表比 +9 億円)

11/3月期 天然ガス 販売状況【前期比】

		10/3月期		11/3月期		比較増減	
		4-9月 #2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 #2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
天然ガス	販売量 (百万M3)	643	1,499	696	1,553	+53	+54
	売上高 (百万円)	24,924	55,593	27,039	61,090	+2,115	+5,496
うち、国産ガス	販売量 (百万M3)	454	1,079	529	1,185	+74	+105



本資料における「国産ガス」の販売量は、買入ガスを除く数値を記載しています。

販売量 前期比 +54百万M3(+4%) 増加

産業用需要及び都市ガス大口需要の増加

売上高 前期比 +54億円(+10%) 増加

+54百万M3(+4%) 需要増加要因による増収
販売価格上昇要因による増収

11/3月期 原油 販売状況【前期比】

		10/3月期		11/3月期		比較増減	
		4-9月 #2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 #2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 2Q累計	4-3月 通期
原油	販売量 (千KL)	967	2,125	946	1,899	▲21	▲226
	売上高 (百万円)	33,008	80,742	38,242	77,629	+5,233	▲3,113

[権益原油の内訳]

国産原油	販売量 (千KL)	250	564	246	547	▲4	▲16
	売上高 (百万円)	9,394	23,122	11,083	25,777	+1,689	+2,655
海外原油	販売量 (千KL)	23	25	3	5	▲20	▲20
	売上高 (百万円)	598	690	117	187	▲480	▲502
ビチューメン	販売量 (千KL)	188	411	197	409	+9	▲2
	売上高 (百万円)	4,140	11,433	5,512	10,141	+1,372	▲1,292

[油価と為替の前提]

原油CIF価格	(USD/bbl)	56.83	67.50	78.95	82.69	+22.12	+15.19
為替/米ドル	(Yen/USD)	96.36	92.74	90.71	86.24	▲5.65	▲6.50
ビチューメン価格	(CAD/bbl)	42.10	50.15	52.98	48.32	+10.87	▲1.83
為替/カナダドル	(Yen/CAD)	82.97	88.07	83.76	81.47	+0.79	▲6.60

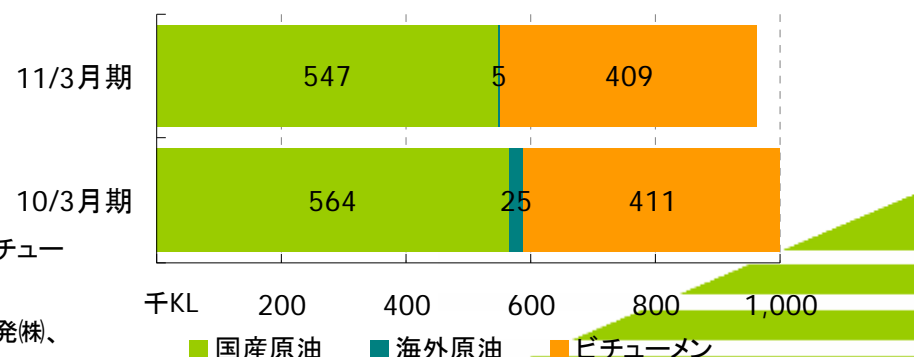
国産原油 : 【+】原油価格上昇

海外原油 : 【-】新南海権益原油 契約期間満了

ビチューメン : 【-】ロイヤリティーの上昇 及び 円高

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は買入原油を除いており、「ビチューメン」の価格及び売上高はロイヤリティー控除後の数値です。

また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社2社(新南海石油開発(株)、Japex (U.S.) Corp.)の合計数値を記載しています。



11/3月期 決算概要【前期比】

[百万円]	10/3月期 通期 実績 (a)	11/3月期 通期 実績 (a)	比較増減
売上高	179,752	199,651	+19,898
売上総利益	54,285	54,732	+447
探鉱費	10,396	9,798	▲597
販売管費	30,769	31,084	+314
営業利益	13,119	13,849	+730
営業外損益	10,087	3,272	▲6,815
経常利益	23,206	17,122	▲6,084
特別損益	162	▲4,166	▲4,328
法人税等	4,443	2,161	▲2,282
少数株主利益	986	783	▲202
当期純利益	17,939	10,010	▲7,928

損益変動要因 (MEMO)

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益

国内原油天然ガス +21億円

海外連結子会社 ▲19億円

探鉱費

国内探鉱 ▲18億円 海外探鉱 +24億円

営業外損益

受取配当金 ▲55億円

有価証券評価損 ▲10億円

特別損益

資産除去債務に関する

会計基準適用に伴う影響額 ▲23億円

東日本大震災 災害損失 ▲15億円

2012年3月期 業績予想

代表取締役副社長 佐藤 弘

12/3月期 業績予想【ポイント】

[百万円]	11/3月期		12/3月期		比較増減	
	4-9月 #2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 #2Q累計(e)	4-3月 通期(e)	4-9月 #2Q累計	4-3月 通期
売上高	92,369	199,651	101,256	223,479	+8,887	+23,827
営業利益	3,845	13,849	5,722	11,757	+1,876	▲2,093
経常利益	4,929	17,122	7,362	15,634	+2,433	▲1,488
当期純利益	1,896	10,010	5,459	11,528	+3,563	+1,517

[油価と為替の前提]

原油CIF価格 (USD/bbl)	78.95	82.69	90.00	90.00	+11.05	+7.31
為替/米ドル (Yen/USD)	90.71	86.24	85.00	85.00	▲5.71	▲1.24
ビチューメン価格 (CAD/bbl)	52.98	48.32	45.48	47.82	▲7.50	▲0.50
為替/カナダドル (Yen/CAD)	83.76	81.47	85.00	85.00	+1.24	+3.53

【12/3月期 前期比 ポイント】

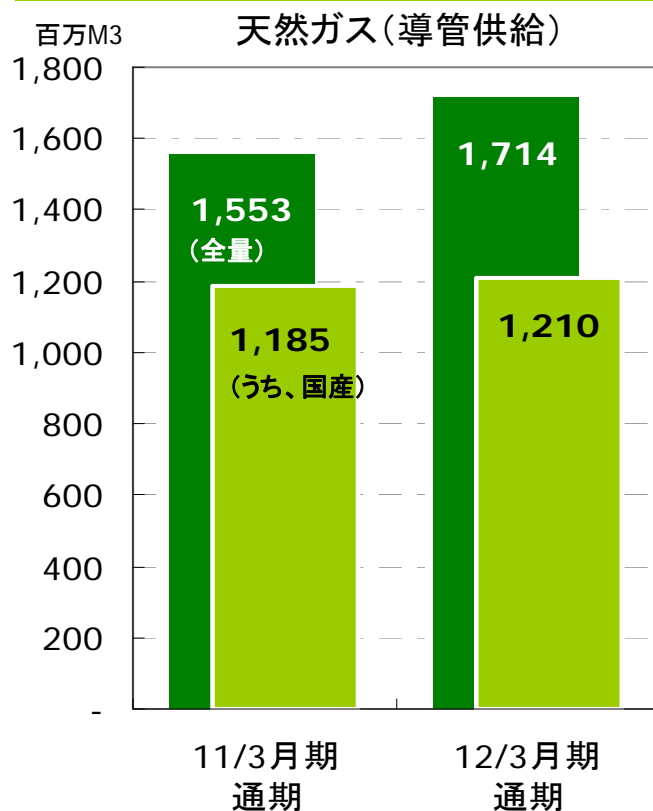
- 営業利益 ▲20 億円 減益
 - 売上総利益 ▲23 億円 受託輸送収入
 - 探鉱費 +3 億円 国内探鉱費

- 経常利益 ▲14 億円 減益
 - 営業外損益 +6 億円 有価証券評価損

- 当期純利益 +15 億円 増益
 - 特別損益 +39 億円 新会計基準、災害損失
 - 法人税他 ▲10 億円

12/3月期 天然ガス 販売予想

	11/3月期		12/3月期		比較増減	
	4-9月 #2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 #2Q累計(e)	4-3月 通期(e)	4-9月 #2Q累計	4-3月 通期
天然ガス						
販売量 (百万M3)	696	1,553	754	1,714	+58	+160
売上高 (百万円)	27,039	61,090	32,493	73,585	+5,454	+12,494
うち、国産ガス						
販売量 (百万M3)	529	1,185	545	1,210	+15	+25



本資料における「国産ガス」の販売量は、買入ガスを除く数値を記載しています。

販売量 前期比 +160百万M3(+10%) 増加

都市ガス及び産業用需要の増加

売上高 前期比 +124億円(+20%) 増加

+160百万M3(+10%) 需要増加要因による増収
販売価格上昇要因による増収

12/3月期 原油 販売予想

		11/3月期		12/3月期		比較増減	
		4-9月 #2Q累計(a)	4-3月 通期(a)	4-9月 #2Q累計(e)	4-3月 通期(e)	4-9月 #2Q累計	4-3月 通期
原油	販売量 (千KL)	946	1,899	948	1,949	+2	+50
	売上高 (百万円)	38,242	77,629	41,774	86,093	+3,532	+8,464

[権益原油の内訳]

国産原油	販売量 (千KL)	246	547	256	553	+10	+6
	売上高 (百万円)	11,083	25,777	12,528	26,978	+1,445	+1,200
海外原油	販売量 (千KL)	3	5	1	2	▲2	▲3
	売上高 (百万円)	117	187	56	102	▲61	▲85
ビチューメン	販売量 (千KL)	197	409	191	403	▲6	▲6
	売上高 (百万円)	5,512	10,141	4,645	10,323	▲867	+183

[油価と為替の前提]

原油CIF価格	(USD/bbl)	78.95	82.69	90.00	90.00	+11.05	+7.31
為替/米ドル	(Yen/USD)	90.71	86.24	85.00	85.00	▲5.71	▲1.24
ビチューメン価格	(CAD/bbl)	52.98	48.32	45.48	47.82	▲7.50	▲0.50
為替/カナダドル	(Yen/CAD)	83.76	81.47	85.00	85.00	+1.24	+3.53

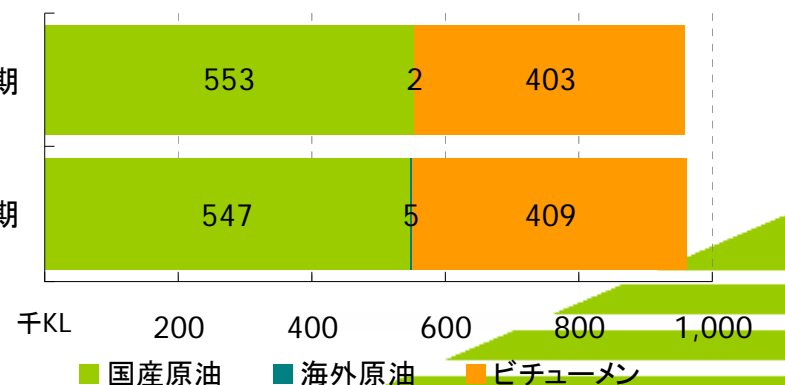
国産原油 : 【+】原油価格上昇及び増販

海外原油 : 【-】数量要因

ビチューメン : 【+】価格、円安 【-】ロイヤリティー、減販

12/3月期

11/3月期



本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は買入原油を除いており、「ビチューメン」の価格及び売上高はロイヤリティー控除後の数値です。

また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社(Japex (U.S.) Corp.)の数値を記載しています。

12/3月期 通期 業績予想

[百万円]	11/3月期 通期 実績 (a)	12/3月期 通期 予想 (e)	比較増減
売上高	199,651	223,479	+23,827
売上総利益	54,732	52,361	▲2,372
探鉱費	9,798	9,446	▲353
販売管費	31,084	31,158	+74
営業利益	13,849	11,757	▲2,093
営業外損益	3,272	3,877	+605
経常利益	17,122	15,634	▲1,488
特別損益	▲4,166	▲255	+3,912
法人税等	2,161	3,245	+1,084
少数株主利益	783	607	▲177
当期純利益	10,010	11,528	+1,517

損益変動要因 (MEMO)

「増益要因を +」、「減益要因を ▲」で記載

売上総利益

国内原油天然ガス +27億円

LNG 代替費用 ▲22億円

受託輸送収入 ▲27億円

探鉱費

国内探鉱 +8億円 海外探鉱 ▲4億円

営業外損益

有価証券評価損 +10億円

受取配当金 ▲3億円

特別損益

資産除去債務会計基準適用 +23億円

東日本大震災 災害損失 +15億円

油価・為替の前提及び収益への影響

油価と為替 の前提	原油CIF価格 USD 90 /bbl	為替 85 円/USD	ビチューメン CAD 47.82 /bbl (85 円/CAD)
収益 影響額	USD 1 /bbl の 油価上昇 による 利益増加額は…	5 円/USD の 円安 による 利益増加額は…	CAD 1 /bbl の ビチューメン価格上昇 による利益増加額は…
営業利益	320 百万円	1,170 百万円	(254 万CAD) 220 百万円
当期純利益	200 百万円	800 百万円	(222 万CAD) 190 百万円

[油価と為替の前提]	11/3月期			12/3月期			比較増減
	1H 10-2Q (a)	2H 3Q-4Q (a)	通期 (a)	1H 10-2Q (e)	2H 3Q-4Q (e)	通期 (e)	
原油CIF価格 (USD/bbl)	78.95	85.67	82.69	90.00	90.00	90.00	+7.31
為替/米ドル (Yen/USD)	90.71	82.95	86.24	85.00	85.00	85.00	▲1.24
ビチューメン価格 (CAD/bbl)	52.98	43.98	48.32	45.48	49.93	47.82	▲0.50
為替/カナダドル (Yen/CAD)	83.76	81.47	81.47	85.00	85.00	85.00	+3.53

注1: 「ビチューメン」の価格はロイヤリティー控除後の価格を表記しております。

注2: 為替変動の影響に関して、上記に示したものを以外に、外貨建金銭債権債務の為替レート換算差額が発生します。
また、実際の利益は原油価格や為替以外の様々な要因によっても影響されます。

新 中 期 事 業 計 画
(2012年3月期～2016年3月期)

代表取締役社長 渡 辺 修

新中期事業計画(2012～2016年3月期)について

I. 新中期事業計画の策定

II. 事業環境認識と前提条件(油価・為替)

III. 経営理念と事業拡大の基本戦略

IV. 成長に向けた取組

- ① E&P事業
- ② 国内天然ガス事業
- ③ 環境・新技術事業

V. 連結損益・投資ポートフォリオ

VI. まとめ

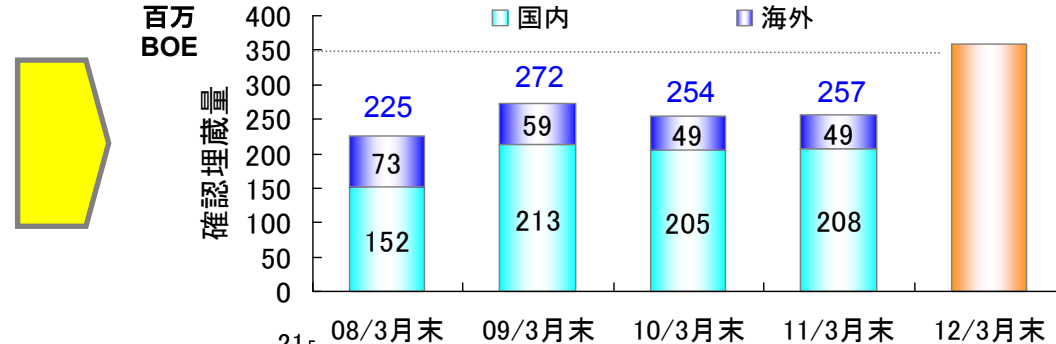
I-1. 新中期事業計画の策定 前回中計の目標達成状況

- 2008年5月発表の中期事業計画において掲げた埋蔵量、天然ガス販売量、天然ガス・国産自社原油売上目標は、2012年3月期までに達成の見通し。

目標1 埋蔵量

2013年3月期までに3.5億BOE

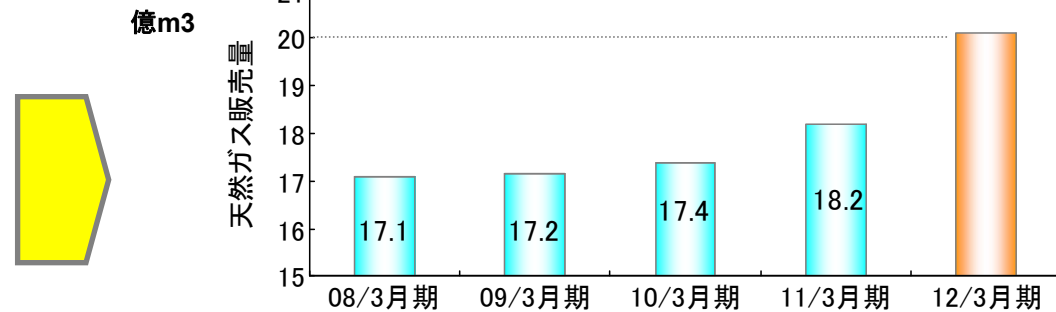
- カナダオイルサンドHangingstone拡張開発FID(12/3月期)を想定
※イラク・ガラの埋蔵量(0.6億BOE)はFDP承認後(14/3月期予定)に計上



目標2 天然ガス販売量

2014年3月期までに20億m3
(連結ベース、サテライト含む)

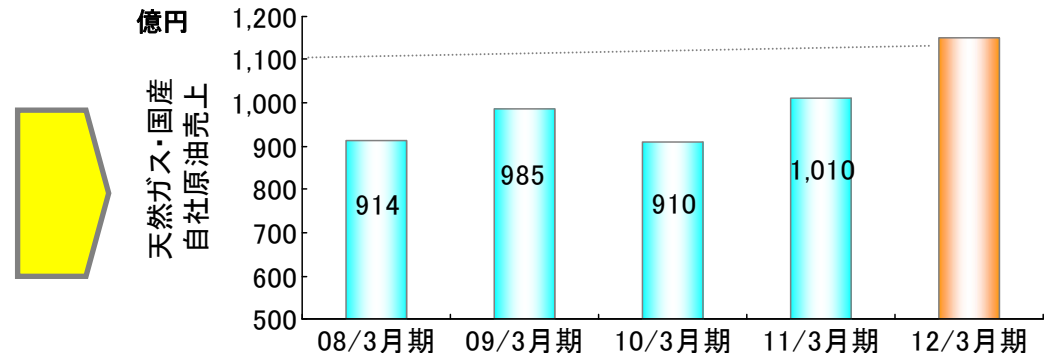
- 天然ガスニーズの高まり
(導管、サテライト)



目標3 天然ガス・国産自社原油売上

2013年3月期までに1,100億円
(連結ベース、サテライト含む)

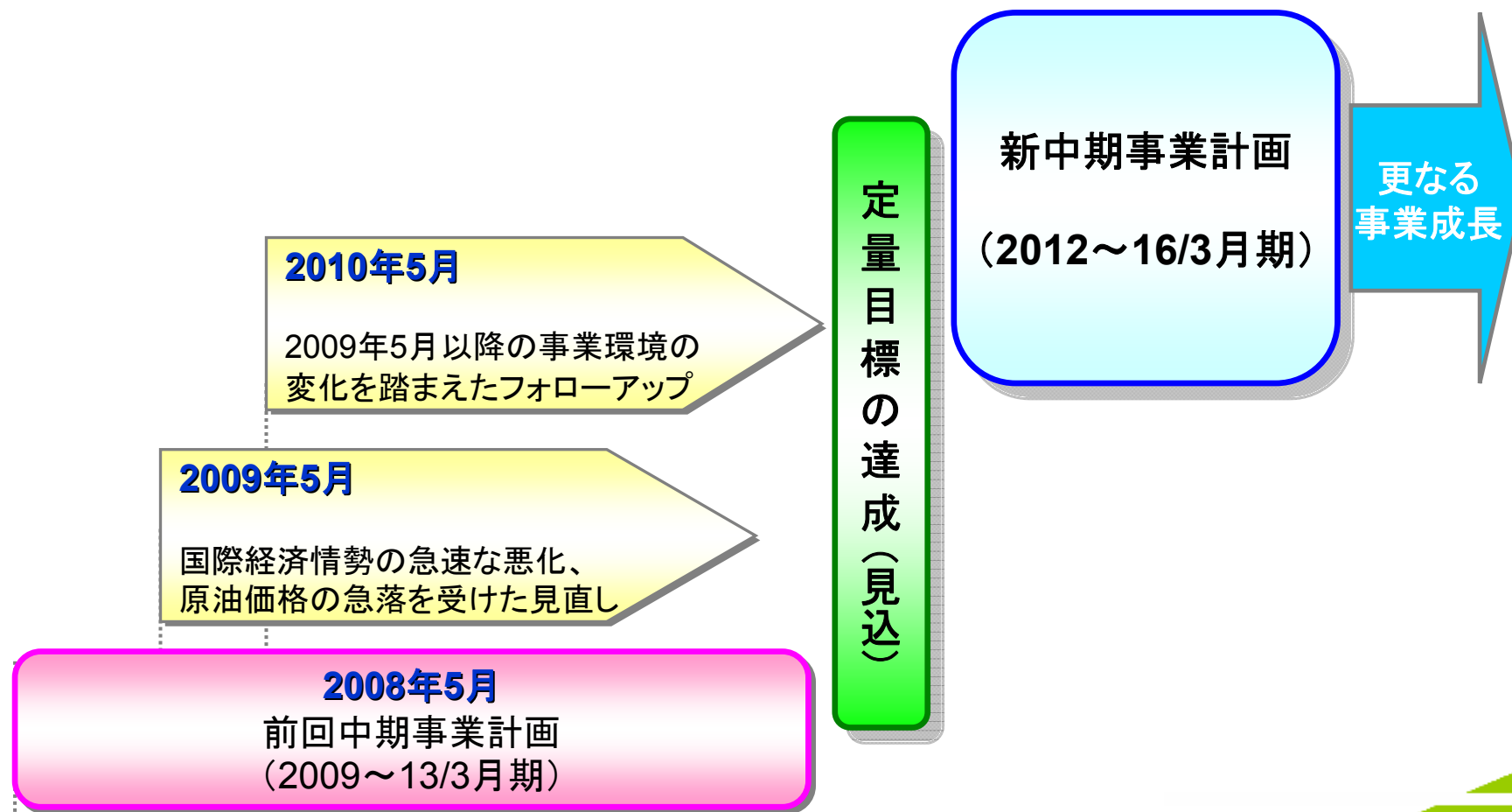
- 油価想定見直し(80 \$/bbl→90 \$/bbl)
- 混合供給への原料費調整制度適用



注)FDP:Final Development Plan

I-2. 新中期事業計画の策定 新中計の位置付け

- 前回中期事業計画で掲げた定量目標の達成見通しを受け、更なる成長に向けた新中期事業計画(2012~16年3月期)を策定。



Ⅱ-1. 事業環境認識と前提条件

事業環境認識

資源開発競争の激化

- 産油・ガス国におけるナショナリズム高揚
- 中東・北アフリカの民主化運動等の影響によるエネルギー価格高騰
- 今後想定される化石燃料回帰の流れ等

国内天然ガス事業の競争激化

- 競合他社による積極的な天然ガスインフラ整備
- 世界的な需要増の見通しに伴うLNG調達競争の激化
- ガス事業制度改革に伴う規制緩和 等

エネルギー価格動向

- 2004年頃から原油価格の上昇傾向が顕著、2008年7月に最高値
- その後、急激に下落するも、再び上昇傾向が顕著
- 原油、LNG価格ともにボラティリティーが増大等

環境問題への社会的意識の高まり

- 2050年を目途としたGHG(温室効果ガス)削減目標は世界が共有
- GHG削減に向けた動きは新たなビジネスチャンス
- 東日本大震災後も長期的なGHG削減の方向性は変わらず 等

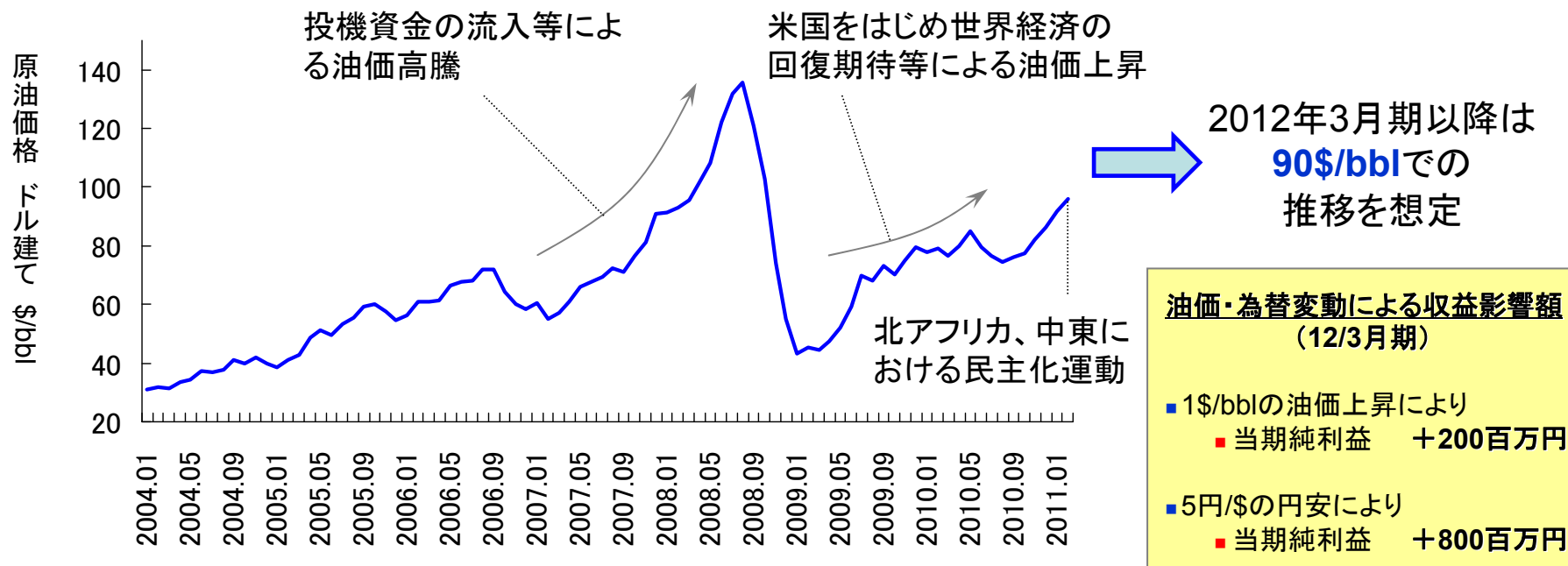
注) 東日本大震災が当社事業に与える影響については、現段階で不透明な面があるため、新中期事業計画期間のうち2013年3月期以降は織り込んでいない。

Ⅱ-2. 事業環境認識と前提条件 油価・為替前提

- 足元の高油価、将来の先高感継続を踏まえ以下の通り想定。
 - 油価：2012年3月期以降 JCC 90\$/bblベースで推移。
 - 為替：2013年3月期以降 90円/\$

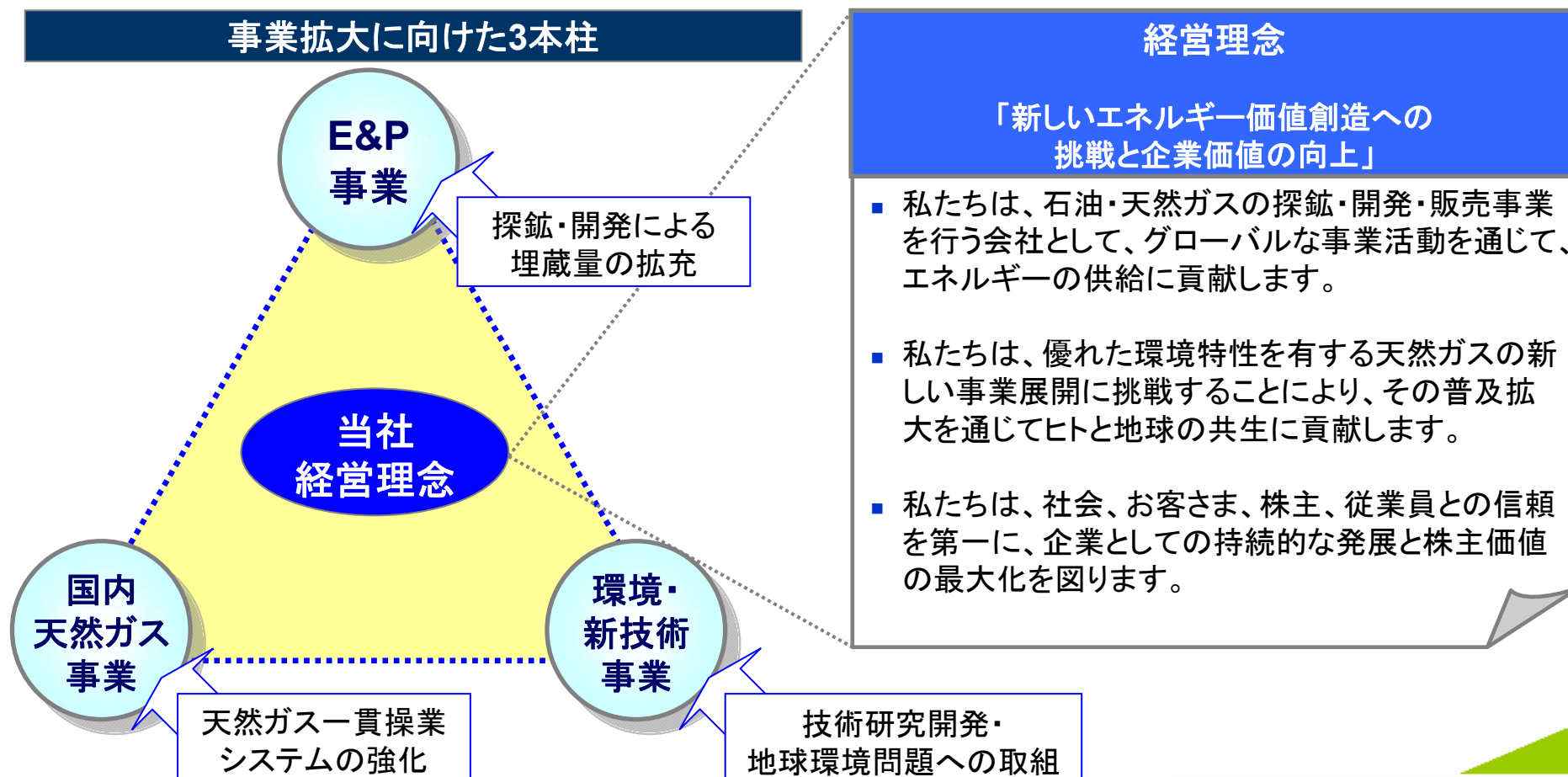
新中期事業計画における油価・為替の前提条件

	11/3月期 実績(a)	12/3月期 見通し(e)	13/3月期 見通し(e)	14/3月期 見通し(e)	15/3月期 見通し(e)	16/3月期 見通し(e)
油価(\$/bbl)	82.69	90	90	90	90	90
為替(¥/\$)	86.24	85	90	90	90	90



Ⅲ-1. 経営理念と事業拡大の基本戦略 事業拡大の3本柱

- 経営理念と事業拡大の基本方針(3本柱)は継続する。



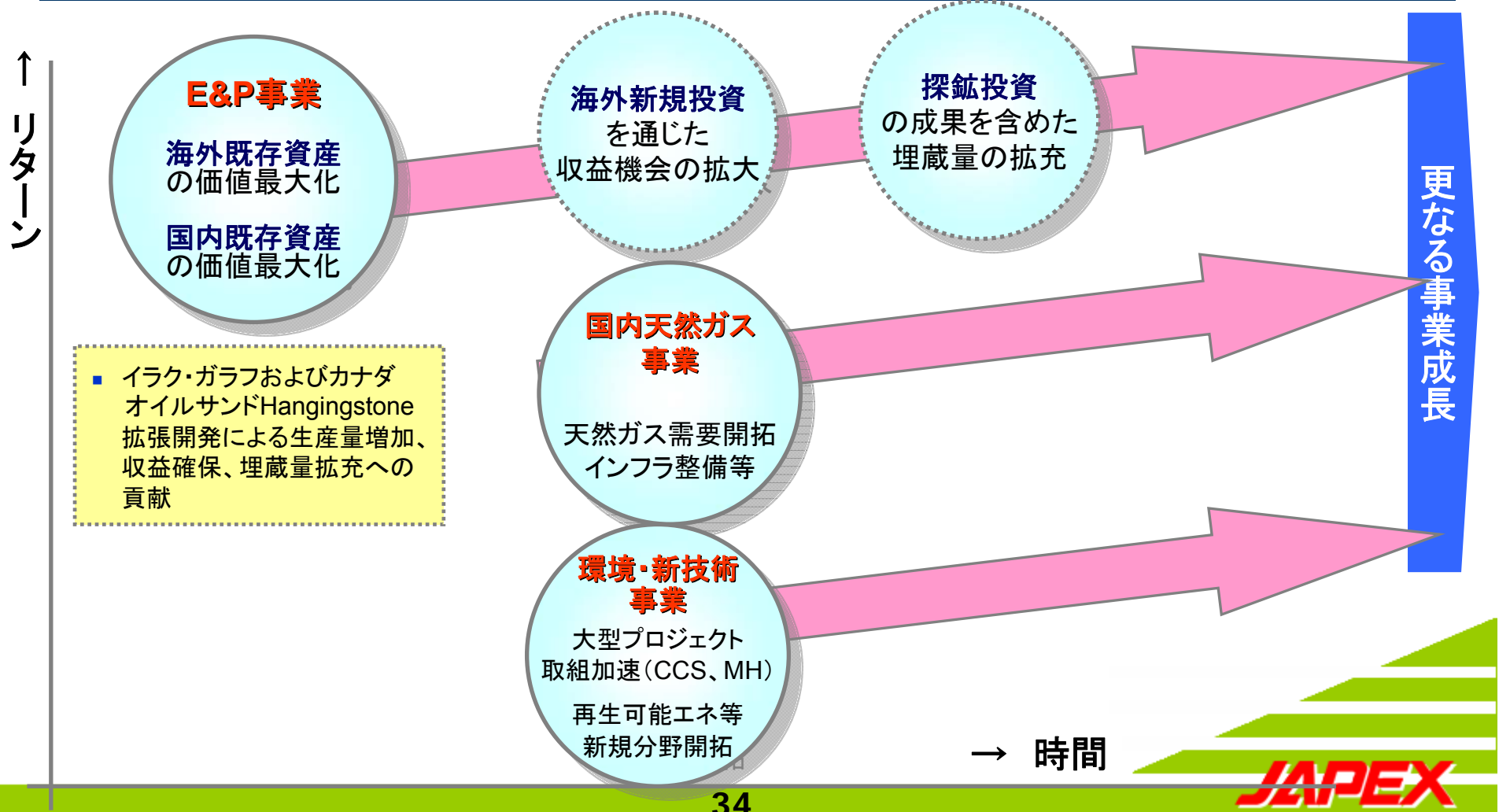
注) [] : 前回中期事業計画(2009~13年3月期)策定時の経営目標

E&P: Exploration and Production 石油天然ガスの探鉱・開発・生産

Ⅲ-2. 経営理念と事業拡大の基本戦略 **成長ストーリー**

- 事業拡大に向けて、E&P事業を軸としつつ、E&Pの海外シフト、国内天然ガス、環境・新技術への新規投資を通じて収益機会の拡大を図る。

新中期事業計画における当社成長ストーリー

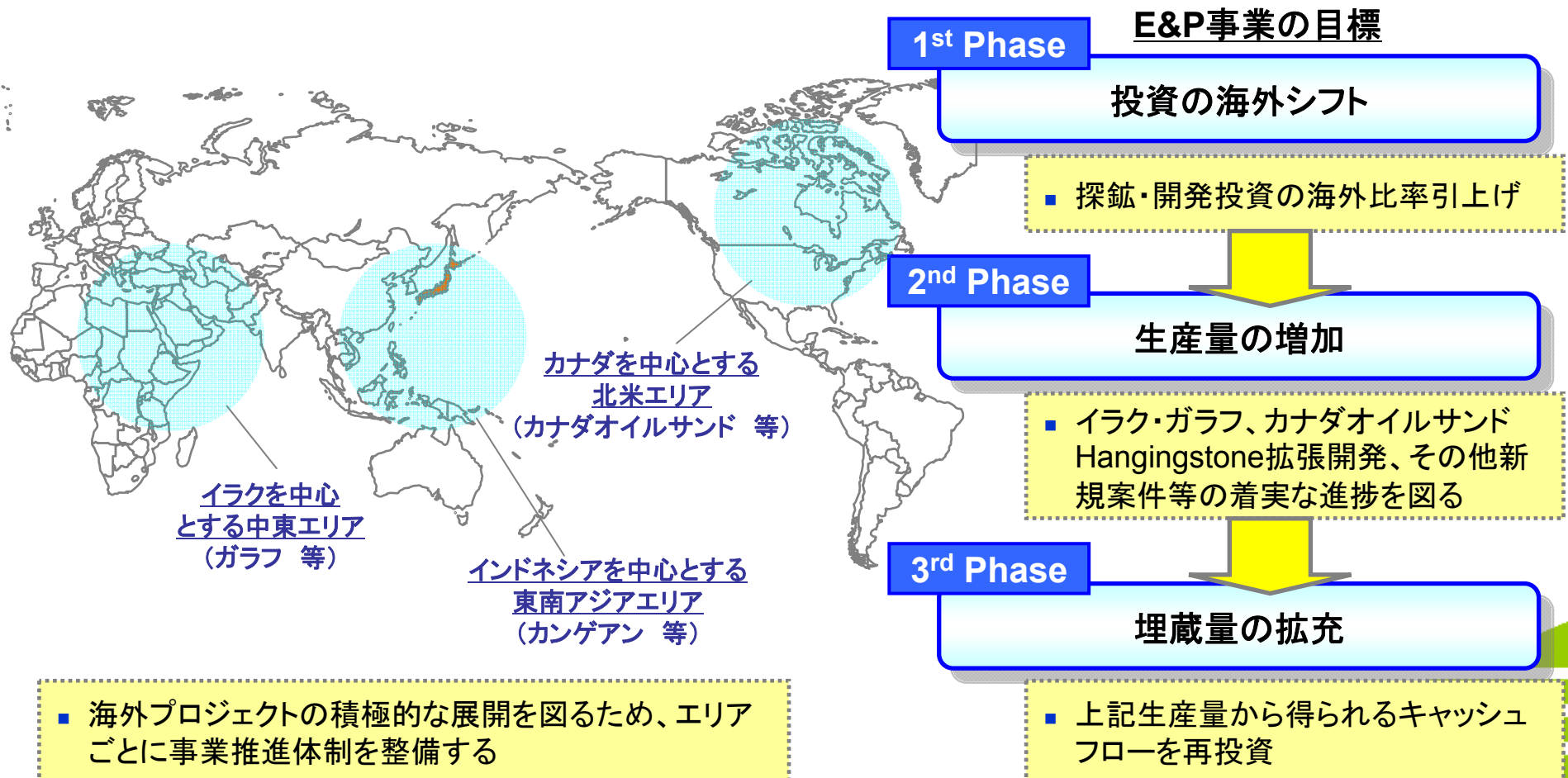


IV-1. 成長に向けた取組

①E&P事業(1/2)

- E&P事業のうち、特に海外シフトについて今後10年間で3つのPhaseに整理し、各Phaseごとに目標を設定。

新中期事業計画における海外E&P事業の取組

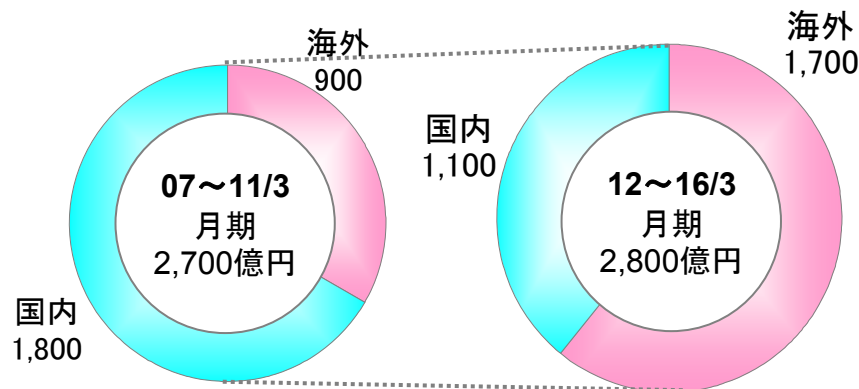


IV-2. 成長に向けた取組

①E&P事業(2/2)

目標1 投資の海外シフト(2012~16年3月期)

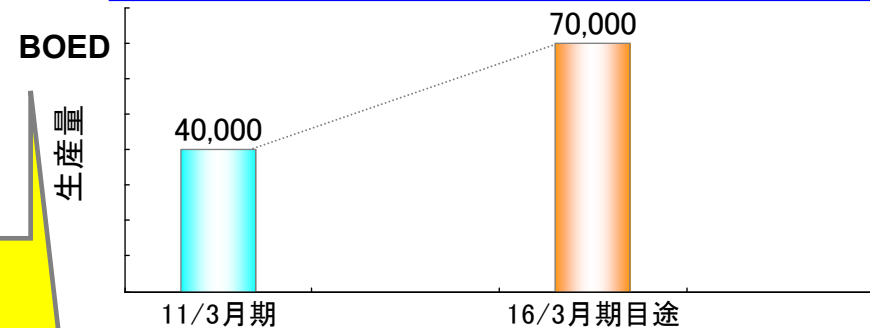
探鉱・開発投資のポートフォリオについて、海外投資比率を過去5年間の約3割から今後約6割まで高めるべくプロジェクトを発掘



※持分法適用会社への貸付等を通じた投資を含む

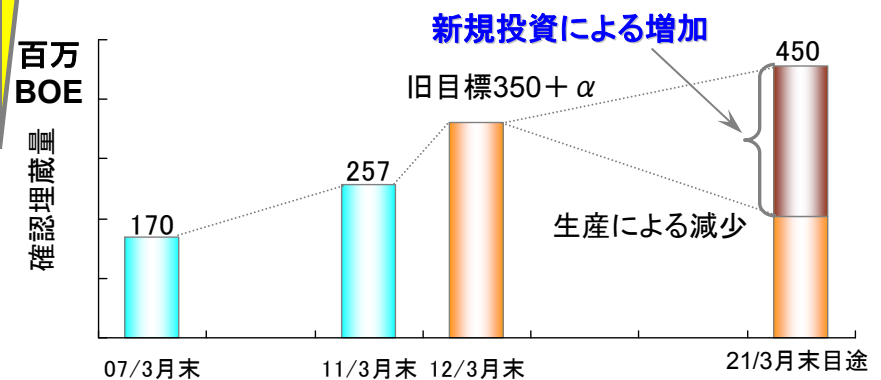
目標2 生産量の増加

2012~16年3月期に開発(計画)中プロジェクトの確実な生産移行とキャッシュフローの拡大



目標3 埋蔵量の拡充

上記生産拡大から得られるキャッシュフローの再投資を通じた更なる埋蔵量拡充

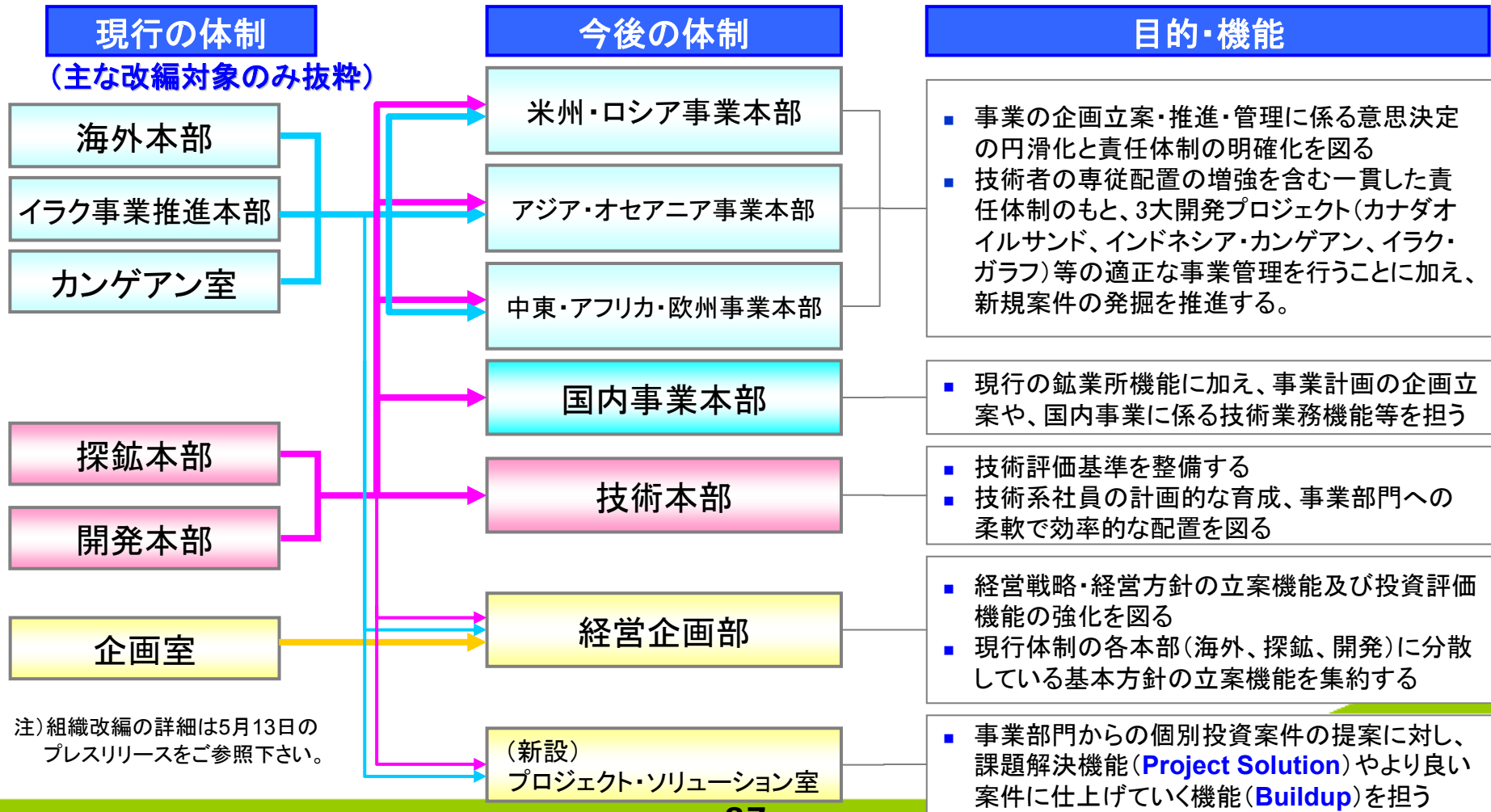


注) 上記生産量、埋蔵量は当社グループの経済的取分相当量

【参考】E&P事業推進体制の整備（6月24日実施予定）

- 海外E&P事業への積極的な投資を通じた収益拡大と収益基盤の確立を目指し、以下の通り体制整備を図る。

今後のE&P事業推進に向けた体制整備の基本的考え方



注) 組織改編の詳細は5月13日のプレスリリースをご参照下さい。

IV-3. 成長に向けた取組

②国内天然ガス事業

- 天然ガスの普及促進に貢献する(ただし、事業環境は不透明)。

新中期事業計画における国内天然ガス事業の取組

国内天然ガス事業の取組

12/3月期

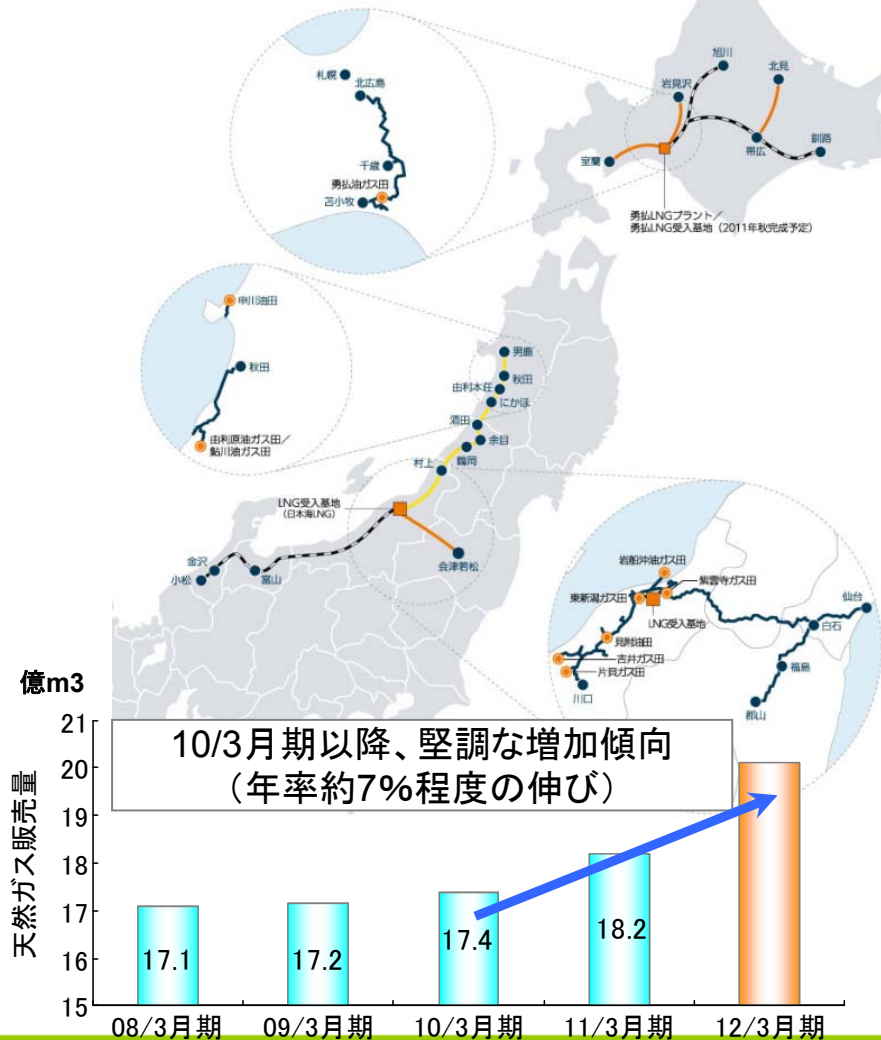
天然ガス販売量目標(20億m³)は達成の見通し

今後の変動要因

東日本大震災等の影響により事業環境は不透明
 北海道の天然ガス販売量は2013年3月期以降減少

今後の取組

天然ガスの普及促進に貢献すべく、需要開拓、インフラ整備等に注力するとともに、販売価格の適正化に努める。



IV-4. 成長に向けた取組

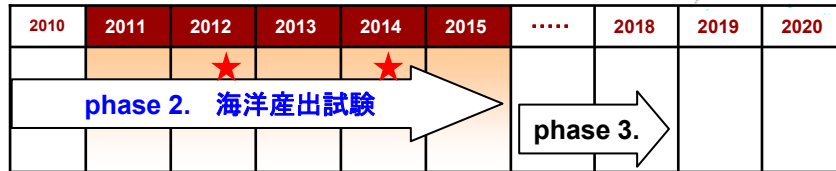
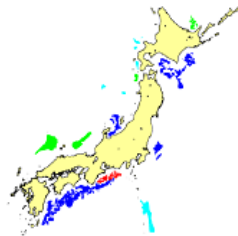
③環境・新技術事業

- 将来の収益基盤を担う“3本柱”の1つとして、事業化に向けた取組本格化

新中期事業計画における環境・新技術事業の取組

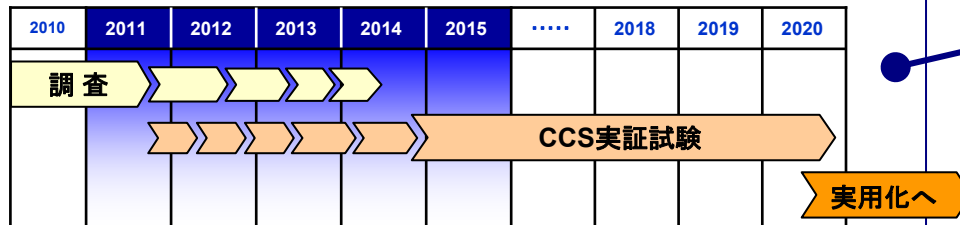
メタンハイドレート フェーズ2 2009-2015年度

- 国は東部南海トラフで2回の海洋産出試験を計画
- 当社がオペレーター受託、事業推進を牽引
- フェーズ2の成果踏まえ、2016年度から 総合評価



CCS 実証プロジェクト

- 2008年日本CCS調査(株)設立、官民で事業推進
- 苫小牧沖の調査井含め、国内3ヶ所で事前調査
- 2020年以降の実用化目標に、CCS実証試験の早期実現に向け注力



※ 事業スケジュールは、現時点における当社の想定シナリオを示したものであり、現段階で具体的な作業計画が確定しているものではありません。

環境・新技術事業の取組

従来の取組

- 事業活動に伴う環境負荷の低減
- GTL実証プロジェクト等への参加

2010年4月

- 環境・新技術事業推進本部を立ち上げ
- プロジェクト推進、案件発掘体制を強化

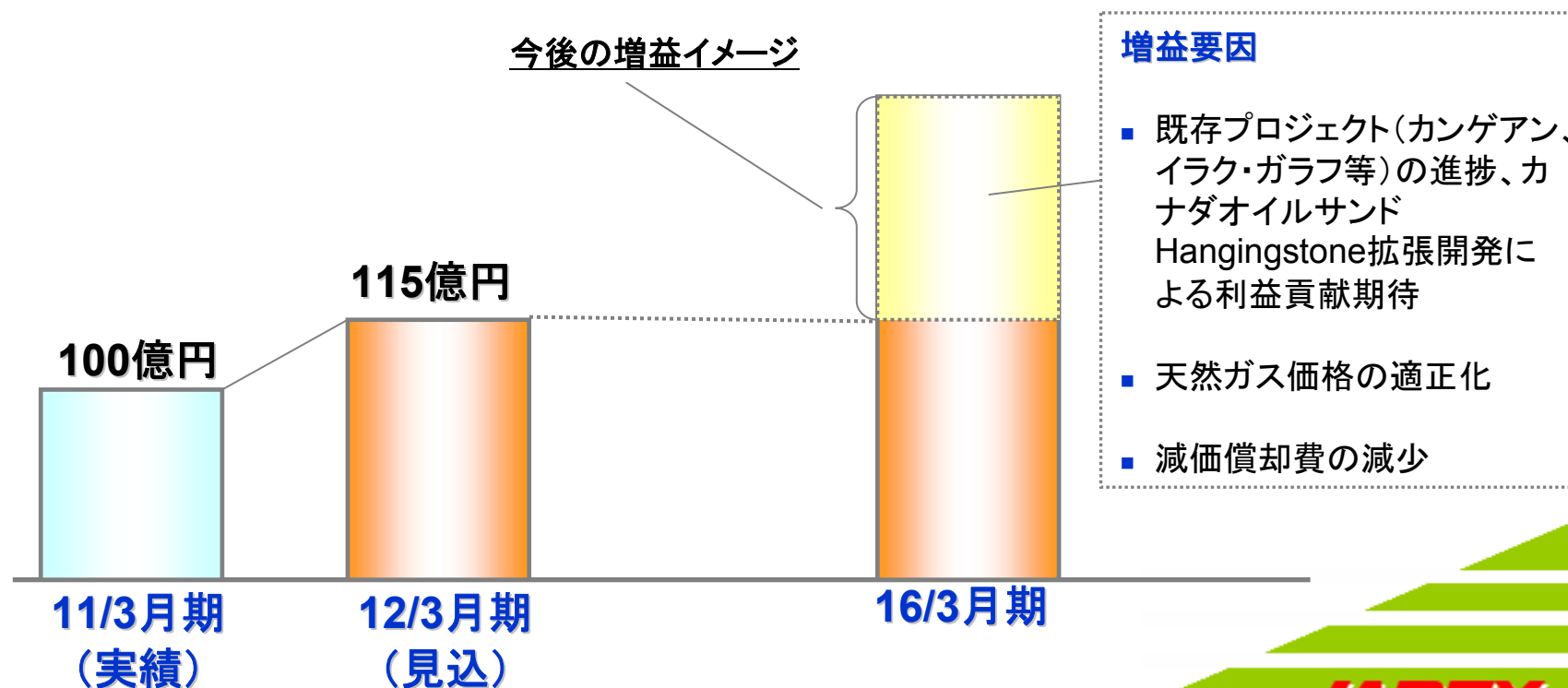
今後の戦略

- 大型プロジェクトへの取組加速
 - ✓ メタンハイドレート フェーズ2
 - ✓ 国内CCS実証試験の推進
 - ✓ 海外CCSプロジェクトへの参画
- 再生可能エネルギー等の新規分野開拓
 - ✓ 2016年3月期までの事業化目標

V-1. 連結損益・投資ポートフォリオ **連結損益**

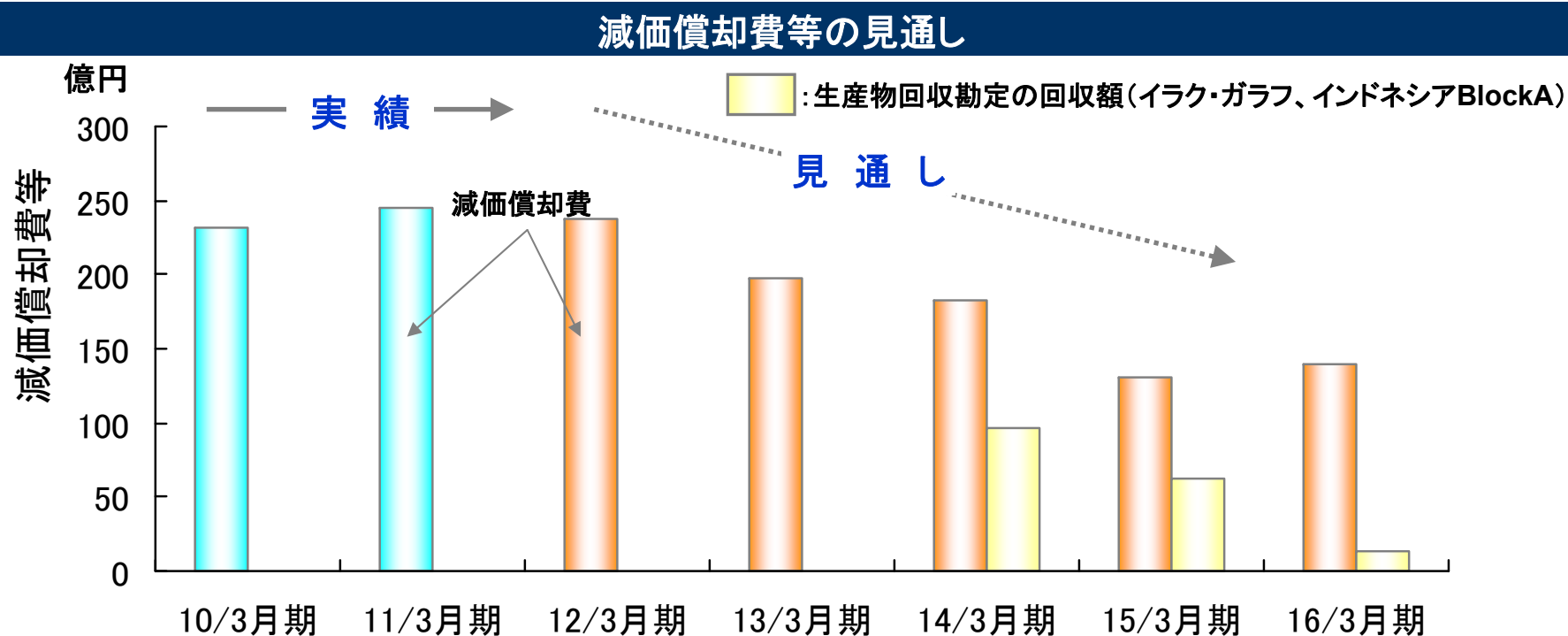
- 当社連結損益は、減価償却費の減少、天然ガス販売価格の適正化、既存開発中プロジェクトおよびカナダオイルサンドHangingstone拡張開発等の利益貢献により、大幅な回復傾向を見込む。

連結損益見通し(当期純利益)



【参考】減価償却費等の見通し

- 連結ベースの減価償却費は、2011年3月期にピーク(約250億円)を迎え、以降は減少傾向に転じる見通し。
 - 国内生産能力拡大に向けた投資が一巡したこと等による



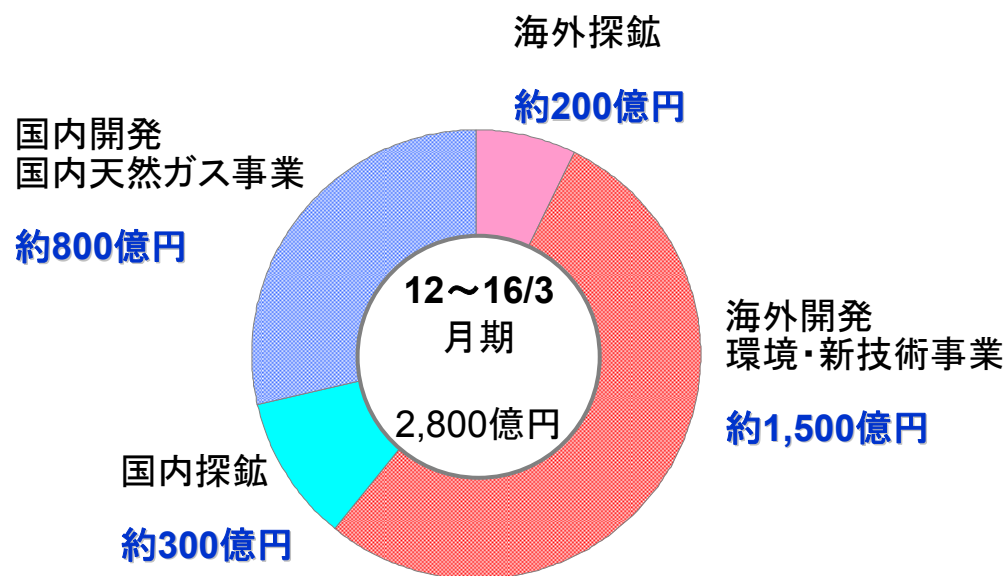
注) 今後の探鉱投資の成果等により、上記の値は増加する可能性がある。

減価償却費とは別に、海外プロジェクトのうちイラク・ガラフ、インドネシアBlockAについては、生産開始に伴う生産物回収勘定の回収が発生するが、生産物収入によって相殺される。

V-2. 連結損益・投資ポートフォリオ **投資ポートフォリオ**

- 2012～16年3月期のフリーキャッシュフローと外部資金調達による投資規模として約2,800億円を想定。
- 投資ポートフォリオは以下の通り。

投資ポートフォリオ(イメージ)



VI. まとめ

- 2008年5月発表の中期事業計画に掲げた目標は2012年3月期までに達成する見通し。
- 2012～16年3月期に至る新たな中期事業計画を策定。
- E&P事業、国内天然ガス事業、環境・新技術事業を事業拡大に向けた3本柱として位置付け。
- 特にE&P事業については、海外シフトに向けた以下の具体的取組を通じて持続的成長を目指す。
 - ◆ 探鉱・開発投資にかかる海外比率の引き上げ(今後5年間、投資額の約60%)
 - ◆ イラク・ガラフ、カナダオイルサンド拡張開発等の着実な実施と生産移行により、海外を中心に生産量の増加を図る(2016年3月期目途に70,000BOED規模)
 - ◆ キャッシュフローの新規案件へ再投資することにより更なる埋蔵量拡充を図る(2021年3月末目途に4.5億BOE規模)
- E&P事業と並行して、国内天然ガス事業の着実な実施と環境・新技術事業の事業化を推進。